山西省への旅

－山西省について地理と歴史の小 note－

2012 年 2 月 25 日
猪飼記

昨年地震のために 1 年延期した日中学院校友会恒例の中国旅行は，訪問場所を少し調整しました。中国歴史揺籃の地の一つである山西省については観光案内を見ればほとんどわかると思いますが，今回の企画を考えた際に調べた内容を note にしておきます。すでに昨年お話しした内容ですが，旅の参考にしてください。★印は今回訪れる所です。

1. 山西省の地理と資源

☆ 位置

山西省はその大部分が黄土高原にあり，南北に伸びる 2,000m 級の太行（háng）山脈の西側に位置し，山脈の東隣は河北省そしてさらに東は北京市に繋がります。南と西は黄河を隔ててそれぞれ河南省・陝西省と接し，北は万里の長城を境に草原と砂漠に北方民族が威を誇った蒙古の地（今は内蒙古自治区）に接しています。したがって山西省は，古代から自然と一つにまとまった地域と言えます。

山西省は，北は大同市（北緯 40 度強）から，南は運城市（北緯 35 度弱）まで，北々東から南々西に伸びたサツマイモのような形をしています。

☆ 広さと山勢

山西省の面積は日本の 4 割強で，中国の省としては 19 番目で小さなほうです。人口も 3,500 万人位でやはり少ない方で，80%が山岳か山地で平野の少ない省です。

東側の太行山脈や西側の呂（lü3）梁山脈以外にも省の北部と中部の間には横に走る山があり，北部と中部および南部に盆地が形成されています。

☆ 太行山脈と黄土高原

太行山脈は約 4,000 万年前に India 亜大陸が Eurasia 大陸に衝突した衝撃がここまで及び，約 2,000 万年前に西側が華北平原に対して 1,000～2,000m 隆起した正断層となって形成されました。したがって河北省側には急峻な崖が形成されています。大断層があるために唐山のような地震発生の可能性もあります。

なお，2008 年四川省で発生した汶（wén）川地震（四川大地震）も，同じような構造の四川省北西部の龍門山脈下の断層が動いたものです。

西部の砂漠地帯から舞い上がり西風に乗った黄砂は太行山脈に阻まれて堆積し，500m もの厚さの黄土高原となったのです。ここに激しい雨が降ると，火山灰地のように深い谷が形成されます。

☆ 黄河と支流

黄河は古代は「河」あるいは「河水」と記されていました。すなわち「河」は固有名詞だったのです。

二代目の日中学院長だった藤堂明保先生の『漢字の語源研究』という本には，曲がった様を表す「可」に「みず」を表すサンズイが付いたもので，カギ型に曲がった「水」すなわち黄河という説明がなされています。「河」自体で特定の意味を有していたという説明があります。

なお，日本語の「かわ」の意味には古代の中国語では上記のように「水」の字が当てられていました。同じく「江」は長江のことを指します。そのせいか今は北方の「かわ」の名称には「河」の字が，南方では「江」の字が多く当てられています。なお，東北では「江」が多く使われているので，命名のいきさつが異なるのかもしれません。

陝西省を横に貫く黄河最大の支流である渭（wèi）河や山西省を南北に流れる汾（fén）河も，『三国志演義』ではまだ「渭水・汾水」と書かれています。事実「渭・汾」の二つの字はこれらの「かわ」や「かわ」に由来する固有名詞にしか使われていません。

汾河は山西省内の最大の河で，忻（xīn）州市北部にある管涔（cén）山に端を発し，市南部の山を貫いて太原と臨汾の二つの盆地を流れ，運城市の北部で西に向い黄河に流入する黄河第二の支流で，省中央部から南部のほぼまん中を，黄土に谷を刻んでいます。

黄河自体は青蔵高原に端を発し北東に流下した後，北緯 40 度を越えて蒙古の地に入って東進し，包頭市を過ぎてからカギの手に曲って向きを南に変え陝西・山西両省の境となりつつ 500km ほど一気に南下します。この間右岸の陝西省側の彼方には共産党革命の聖地延安があります。
黄河は渭河と合流する古代の関所「潼関」があるところでまた突然カギ型に曲って東進し，「鶏鳴狗盗」の故事や「箱根の山は天下の嶮～♪」で有名な「函谷関」を経て，太行山脈を渓流で切り拓き華北の沖積平原に流れ出ます。この間の渓谷は三門峡として有名です。 潼関から華北平原に出るまで黄河は河南省との境になっています。古代から東西の軍勢がこの隘路を抜けて，渭水盆地や華北平原に攻め込みました。
なお，三門峡の上流は今はダムになっています。

☆ 五岳と恒山
中国では五行説や風水など道教に関連した伝統思想がいまでも多くの人に受け入れられています。例えば方位は東の青龍，南の朱雀，西の白虎，北の玄武（玄は黒，蛇と亀の一体化したもの）と，色と動物が当てはめられていて，それぞれ神として祭られています。
そのような中に五岳の考えがあります。これは中原の東西南北と中央にある名山に権威を認めたもので，やはり神がいると考えられて来ました。それらは河南省の中岳嵩（sōng）山（少林寺がある），山東省の東岳泰山（皇帝が封禅の儀をとり行った），湖南省の南岳衡山，陝西省の西岳華（huà）山，最後は今回行く懸空寺がある北岳恒山です。いずれも他の山から抜きんでて聳えているので，現在のように ropeway が設置されていなければ，登るには下から石段で上がらねばなりません。

☆ 森林・地下資源と産業
山西省は秦代以前の森林の被覆率は 50%を越えると推定されています。『史記』の記述からもそれは容易に推察できます。北魏時代の地理書『水経注』などによると，そのころの大同は「草木が生い茂った秀麗なところ」と伝えています。 1990 年代刊の『山西通志』によると，唐宋代でも森林の被覆率は 40%程度を維持していたということが古代の文書から推定できるそうです。豊富な森林資源は秦漢の時代から都長安や洛陽の建設にも役立ったと思われます。
しかし，明清代に至って山西省の 80%を占めるという山地は急速に裸になり，被覆率は 10%台に下がり現在はわずか 2～3%となりました。その結果黄土地帯であるためどんどんと表土が流出しています。
森林資源がなくなった現在では，盆地以外は農業生産力が豊かな土地ではありません。一方埋蔵資源は 10 億年以上前に大洋底だった場所に堆積した鉄や鉱物資源および後述のように石炭が割と豊富で，古代より採掘されて国力の源になりました。

☆ 塩湖
解池は黄河に近い場所に位置する小さな湖ですが，塩分は死海並と言われています。塩は鉄と共に前漢の武帝の時代にすでに国家管理となり，一時はこの塩湖からの収入が国家財政の 1/8 を占めたと言われています。この事を漢代に皇帝の前で，儒家と法家が議論した『塩鉄論』が有名です。

2. 山西省の主な歴史

☆ 新石器時代と伝説の時代
山西省には旧石器時代の遺跡もたくさん見つかっています。そのころはたぶんたいへん豊かな土地だったと想像されます。
古代気候の研究はまだ進行中ですが，最後の氷河期が約 1 万 5 千年前に終わると，だんだんと温暖な気候になり，現在の東南 Asia 沖の陸地（Sundaland）が水没しました。その前からその沖積平野に住んでいた人たちは時間をかけて各地に移住し，一部は既に住んでいた古 Asia 人と混血または入れ替わって温暖化と共に山西省の地にも辿り着いたのでしょう。
温暖な気候は全地球的に 6,000 年前ほどから寒冷化と乾燥化へ向かい，それに伴って食料確保のために，世界各地で集団で生活を維持する体制が出来たとされています。すなわち古代部族国家の誕生です。
中国古代の聖王堯（yáo，都は臨汾）・舜（shùn，都は永済）・禹（yǔ，都は夏県）のすべてが都を山西省に置いたという伝説があるくらい豊かな土地で文化も発達していたのです。なお， 禹は商（殷ともいう）に滅ぼされた前の王朝夏の創始者といわれています。

☆ 周代の歴史

山西省は自動車の number plate の「晋（jìn）」が示すように，古代周王朝のときに晋という名で大々的に歴史に登場しました。山西省のほぼ中央にある今の省会（省都）である太原市のあたりに晋の都「晋陽」が置かれていました。

晋には六家の有力な家臣（卿）がいましたが，後にその内の三卿（趙，韓，魏で三晋ともいう）が晋公を廃して三つの国に分裂しました。諸説がありますが，三晋が諸侯と認められた時（BC403 年）を境に，春秋時代から戦国時代に入ったとしているのが有力です。

春秋時代は森林資源が豊かであったこともあり，晋は北方の強国として華中にあった屈原で有名な「楚（chǔ）」と何度も中原の地で覇を競っています。

また，三晋の趙・韓・魏はすべて戦国の七雄に挙げられています。なお，他の四ヶ国は陝西省にあった秦，河北省・北京市にあった燕（yān），山東省にあった齊，華中にあった楚です。

☆ 関帝廟

『三国志演義』の英雄関羽の故郷は河東解梁と書かれています。今の運城市にある塩湖解池のあたりの解州鎮でしょう。関羽は死後だんだんと出世して，隋代には神になった関羽のための廟が造られました。廟はたびたび改修され，今では中国最大規模を誇る関帝廟の総本山となっています。

なお，山西省には宋や遼代以前の寺院などの古い木造建築が 105 箇所あるそうで，それは全国の残存数の 70%以上を占めるといわれています。

☆ 北魏

秦の全国統一以来，山西省は歴史の第一線にはあまり立たなくなりました。

三国の後短い晋王朝が崩壊し南北朝になった時に，鮮卑族の王朝北魏（wèi）が大同に都を移し平城京と称しました。北魏が洛陽に遷都するまでの約 100 年間，大同は最大規模 100 万人を擁する鮮卑族・漢族など多民族の大都会だったようです。

この間に雲崗の石窟や懸空寺などの仏教建造物が作られました。日本でも平城京という名称は大同の名前をまねたようです。また，法隆寺など飛鳥時代の寺々には北魏様式の仏像が数多くあります。

☆ 大同市

大同市は雲崗の石仏以外に石炭で有名です。盆地の地下には中国全土の 1/3 近くの 400 億トンの埋蔵量があるとされています。

北魏時代に前から住んでいた漢族と異民族との混血が進んだり，各地から美男美女を集めたためか，今でも整った顔をしている人が多いという話です。飛鳥仏像の端正な顔つきは，当時の大同人の顔を真似たのかもしれません。

☆ 唐の建国

北魏の貴族であった鮮卑族の李淵は故地である山西省で起兵し隋を倒し，晋の古名を使って唐を建国しました。唐王朝の姓は中国風に李と名乗っていて，中国の皇帝たる正当性を誇示していますが，異民族王朝の一つであるといえます。

☆ 宋代

宋は経済的には非常に発展した王朝でしたが，軍事的には弱体でした。文官支配の政権でしたが，中国に伝統的な腐敗が酷くなったのも事実です。『水滸伝』はそのような状況下に梁山泊に集まった男伊達たちが官軍相手に勢力を誇示する白話小説です。

山西省は唐の滅亡後の五代十国のときに，大同は北京などと共に燕雲 16 州地方は北方民族の支配下にありました。始めは契丹族の遼，後には女真（満州）族の金です。宋代は中国の版図中には宋以外に四つ（吐蕃，西夏，遼/金，大理）の異民族王朝がありました。これらは皆最後は蒙古族に滅ぼされて元となりました。

☆ 元代
　元のときには山西省は中央直轄地域となり，重要な産物の石炭・塩などが中央の管理下に置かれました。

☆ 明清代
　今回行く平遥など山西省は，明清代に南部を中心に商業が非常に発達しました。約 500 年間中央政府と直接結びついた商人達は，塩の販売・管理や蒙古や後金（後の清）との茶などの貿易を通じて大きくなり，安徽省南部の徽商と並び称されて晋商と言われました。特に内国為替制度の元祖「票荘/票号」などが有名です。

☆ 北洋軍閥
　北洋軍閥は民国臨時大統領になった袁世凱が率いていた，辛亥革命以前の清国末期からの軍隊です。
　もともとは太平天国の軍隊と対峙するために，当時李鴻章が満州八旗の正規軍とは別に組織した淮（huái）軍が，日清戦争時の清国側の主力軍となりました。日清戦争に敗退し淮軍は壊滅したのですが，李鴻章の後を襲って清朝の軍権を掌握した袁世凱の軍の主力に吸収されました。

☆ 山西軍閥
　北洋軍閥は袁世凱政権の中の有力な将軍達によって形成されていました。山西省出身で日本の士官学校へ留学した閻（yán）錫山は，そのような派閥の一つの山西軍閥を率い，民国設立後の山西省を独立国並に統治し，工業の近代化を通じて勢力を伸ばしていました。しかし一時蒋介石と割れたためその攻撃を受け，さらに西からの共産党軍との戦いもあり弱体化しました。
　ついには日中戦争の過程で日本軍が石炭を求めて山西省に攻め込んだために，この地方政権は日本軍と表面上は妥協して形だけ維持し続けました。

☆ 山西残留旧日本軍
　山西省には旧日本軍および現地にいた約3万人の民間人の中から約 2,600 人が敗戦後も日本に引き上げられずに残留し，閻錫山軍に編入され，共産党軍相手に国共内戦を戦いました。戦死した約 550 人を除く約 1,000 人が帰国し，残りは閻錫山軍の敗退と共に共産党軍の俘囚となりました。
　旧満州に残った未帰還者とは異なりあまり注目を惹いていませんが，これも日本の大陸侵略の悲しい結末の一つです。なお，閻錫山は戦後台北に移り住み 1960 年に没しました。

3. 観光予定地について

　いくつかの観光予定地についてはすでに前節で触れましたし，その内容は観光案内の方が詳しいと思いますので，気が付いたことだけまとめておきます。
　なお，今回の旅は山西省の中央部と上半分の東側へ行こうとしています。緯度は日本の関東地方北部から東北地方並ですが，海抜が 500m 以上あるので，今回行く 3 月末はまだ冬の延長にあると考えてよいでしょう。早春はあまり雨が降らず，むしろ旱魃の虞があるところです。

★ 太原
　今回は山西省への旅の入り口として一泊します。省都（省会）太原の古名である晋陽は，洛陽などと同じく晋水の北側の都市ということです。「陽」は山の南側や水辺の北側を指します。「陰」はその逆ですが，陰の場所に都市を造るのは好まれないので，「～陰」という地名はあまり見受けられません。
　なお，日本の山陽・山陰も同じ原理で命名されています。
　太原盆地は中国有数の小麦の産地です。そこからいろいろな麺類の文化が生まれました。刀削麺もその一つです。

☆ 晋祠
　今回は立ち寄りませんが，太原市の南方にある晋水の水源地に晋祠があり，晋の始祖叔虞（yú）（姫姓で周王朝二代目成王の弟，当時「唐」と呼ばれていたこの地に「剪桐封国」の故事で封じられた）や道教の神々が祭ってあります。晋祠は北魏時代に建てられ，その後拡張されたものです。

ここには周代から生き残っているといわれる「周柏」があり，古代の山西省の環境を彷彿させます。「柏」は中国では松柏と並び称されている木で，「柏餅」に使う「このてかしわ」とは異なり，杉と松の合の子のような木です。

★ 喬家大院

規模は同じく晋商の城壁邸宅王家大院に比べると小さいですが，銀行家への道を進む晋商の一代記を映画化した張藝謀の『大紅燈籠高高掛』の撮影舞台になったので有名です。TVドラマ『喬家大院』も大ヒットしました。

★ 平遥古城（世界遺産）

今回の旅行の最大の目玉で，すでにご案内の通り，古い城壁がほぼ完全な形で残っている街です。中国語で都市のことを「城」と呼んでいる意味が実感できると思います。

日本以外の世界各地の都市は基本的には街の周りをぐるりと城壁で囲んだ城郭都市です。敵の攻撃や盗賊の来襲を防ぐ天然の要害がなかったからです。

城壁の内部では統治者やその官僚・軍隊の組織があるだけでなく，農業以外の多くの産業が営まれていました。殷（商）以前の王朝とされる夏の遺跡と推定されている紀元前 2,000 年前後の河南省の「二里頭」遺跡からも数 100m 四方規模の板築で造られた城壁が発掘されています。

都市の発展とともに城郭内は狭くなるので，だんだんと周辺に新たな城壁を増やしたり，移設したりして都市は大きくなりましたが，中国ではついに城壁そのものを壊してしまい，都市を取り囲む城壁が完全な形で残っているのは平遥くらいになってしまいました。

北京の環状線の地下鉄に乗ると，かつて城壁に門があったときの名称が駅名になっていることがわかります。いまの北京では，二環といわれる旧城壁の内側にマンションを持つなど夢のような話です。

★ 閻錫山故居

山西軍閥閻錫山が山西省を統治していた時の拠点で，西洋と中国様式の合わさった千室ほどの建物が 33 万㎡の敷地に建っています。今は民俗展示館として使われています。

☆ 杏花村

杏花村は太原の南西 100km ほどの呂梁市の東端にあり，平遥市からは西北西に 50km くらいです。古来アルコール度が高い蒸留酒（白酒）の汾酒を造って来た所です。杏花村から西に 50km ほどにある仰韶文化時代（紀元前 3,000～5,000 年）の段家庄遺跡からは酒器が見つかっているそうです。

なお，汾酒に竹の葉の芽を浸けて甘みも加えた竹葉青酒もここの産です。

山西省の食品では汾酒などの外に，老陳黒醋が有名です。

★ 五台山（世界遺産）

五台山は日本から入唐（宋）求法した僧侶の多くが訪れたことでも名高い仏教聖地で，三大霊山の一つ（残りは浙江省の天台山，四川省の峨眉山）あるいは四大名山（四川省の峨眉山，浙江省の普陀寺，安徽省の九華山）の一つです。その名の通り大きな峰が五岳と同じように東西南北中とあります。

後漢の時代に道教の根拠地だったのを廃して寺を建てたと伝えられています。北魏時代からは寺院がたくさん建立され，最盛期の唐代には 300 寺以上あったそうです。現在でも 39 ヶ寺が建っています。

五台山の標高はかなり高い（平均 1,100m）ので，冬は山の峰に立つ寺院での修行は山麓よりも厳しくたいへんです。なお，西蔵仏教の寺もあります。

★ 懸空寺

恒山は標高 2,000m 程度ですが，懸空寺は山頂へ行くのではなく，下から 50m ほどのオーバーハングになっている崖の内側にあります。

岩に穴を開けて太い木材を横に差し込みその上に建てたもので，蜀の桟道と同じような造りです。儒仏道の三教を合わせて祭ってあります。日本における神仏習合に似ています。

以上

今後の旅行先について

いままでの校友会の旅行は，第１回から10回まで長谷川先生の引率の下で，下記のところへ行きました。その後，第11回からは自主的に下記のところへ行きました。次回，どこへ行きたいかを考えませんか？

’93/3	第１回	胡同の北京　開発の大連	北京・大連
’94/3	第２回	明・清の北京　民間工芸の天津	北京
’95/3	第３回	早春の紹興－魯迅の故郷を訪ねて	杭州･西湖・紹興
’96/3	第４回	ゆったり西安５日間	西安
’97/3	第５回	明・清の面影を残す江南水郷周庄と蘇州の旅	蘇州・同里・周庄・甪(lù)直
’98/3	第６回	長江クルーズ・歴史の旅	三峡
’99/3	第７回	雲南少数民族と長江上流を訪ねる旅	昆明･大理･麗江・玉龍雪山・中甸
’01/8	第８回	A：福建省土楼を訪ねて B：黄土高原と延安を訪ねて C：大同と平遥を訪ねて D：東北周遊の旅	日中学院五十周年，北京で集合
’03/3	第９回	世界文化遺産安徽省古民家群と新上海百万元の夜景を訪ねる旅	上海・宏村・西遞村・屯溪・黄山
’04/9	第10回	四川省の自然遺産を訪ねる旅	九寨溝・神仙池・海螺溝・成都
’05/9	第11回	湖南省の世界遺産と古城の歴史を訪ねる旅	長沙・韶潭・張家界・王村・徳夯・鳳凰
’07/3	第12回	貴州省の少数民族と文化を訪ねる旅	貴陽・黄果樹瀑布・龍宮・安順・郎徳上寨・車江・三都・丹寨・遵義・青岩・花溪
’08/3	第13回	天津・清東稜・承徳の歴史文化遺産を訪ねる旅	青島・天津・清東稜・金山嶺・北京・承徳
’09/3	第14回	四川綿竹・都江堰・雅安・蛾眉山を訪ねる旅	綿竹・都江堰・青城山・雅安・蛾眉山
’10/3	第15回	福建客家土楼・アモイ・コロンス島・武夷山を訪ねる旅	龍岩・古田・永定・南靖・アモイ・コロンス島・武夷山・九曲溪・下梅村
’12/3	第16回	山西省平揺古城と懸空寺・五台山古刹を訪ねる旅	大原・平揺・五台山・大同
案A	第17回	河南省に殷墟と北宋の栄華の夢を見る旅	鄭州・開封・安陽小屯
案B	第17回	湖南省・江西省などからどこか選ぶ	盧山・景徳鎮・馬王堆漢墓など
案C	第17回	その他陝西省，廣西省など。東北三省なら9月	